

透明性の高い流通環境が必要です。

インターネット流通サイト最大手アリババで、GIA 天然ダイヤモンド鑑定書とその鑑定書番号がガードルにレーザー刻印されて売られていた CVD (合成ダイヤモンド) のニュースは、CVD の流通量の増加と、宝石商の鑑定鑑別書への依存度が上昇している現状に対する警鐘を鳴らしたでしょう。

<http://www.idexonline.com/FullArticle?id=41657> (IDEX の記事)

<http://www.diamondintelligence.com/magazine/magazine.aspx?id=13963> (DIB の記事)

<http://www.wfdb.com/downloads/LCC.pdf> (WFDB による GIA 鑑定書のリスト)

ダイヤモンドの取引では鑑定書による価値判断と「信用」取引が常態化しており、この慣例が宝石商の拠り所とする「信用・信頼」を脅かすウイルスに変化することが明らかになった、と言わざるをえません。もちろんそのウイルスを悪害ウイルスとして流通させるのは悪徳業者に他なりません。一般の宝石商が鑑定鑑別書に依存しすぎる状態や取引慣例は、ルビー・サファイアの色呼称、宝石の産地鑑別そして花珠鑑別などを次のウイルスを生む温床へと導いてしまう可能性を秘めているでしょう。日本宝石協会ではそのウイルスが悪害にならないように、会員は勉強会による体験学習で見識を向上させ、シンポジウムを通し概念を明確にし、日常の取引（経済活動）から体力を増強しようと努める志し高き同志です。次の勉強会は 3 月 23 日(水) 24 日(木)と間近ではありますが、改めて皆様のご参加をお勧めします。テーマは多様な種類と色味を持ったガーネットです。

CVD 及び人造ダイヤモンドの流通は確実に加速しています。CVD の生産量は今後 3~5 年内にはダイヤモンドの 1%に達すると予測されています (India's Natural Diamond Monitoring Committee 発表)。2015 年には、更なるダイヤモンドのプロモーション活性化を目的に、De Beers を含むダイヤモンドを採掘する七大鉱山会社による Diamond Producers Association(PDA)が発足しました。

(<http://www.diamonds.net/News/NewsItem.aspx?ArticleID=52407&ArticleTitle=Mining+Companies+to+Create+Diamond+Producers+Association>)

本年は人工ダイヤモンド生産企業により、消費市場に対し人工ダイヤモンドのプロモーションを目的に発足しました(<http://theigda.org>)。WFDB は「CVD 自体が消費者の消費意欲を削ぐものではない。CVD として明確に情報開示し、CVD として販売すべきだ。」と語っています。CVD との共存は避けられない事実であり、その共存共栄の礎は「情報開示」に他なりません。

科学的にも貴重な結晶「宝石」は何物にも勝る美しさで私たちを魅了し、時には言葉で語り尽くせない感動を授けてくれます。歴史的に宝石は美の改善を目的に処理がされてきました。美の創造に強い欲求を持つ人間は、自然界から生まれた宝石の美しさに追従する、時には凌駕する美を作り出すことに恍惚を覚えます。美しいモノを創造する欲求は、人間の本能ではないでしょうか。宝石商として美しい宝石を買い付け、美しいジュエリーを創

る能力だけでなく、正しい情報の収集と分析をする能力を身につけると同時に、正しく伝える能力を携えることが求められています。

情報開示の方法として啓蒙されているものが Common Disclosure Code（情報開示コード）の Invoice 上での明記です。世界三大協会と言われる CIBJO、AGTA と ICA が共通で使用しているコードは次のリンクでご確認いただけます。

<http://gemstone.org/images/news/tradecodes.jpg>

当協会副理事長のアラウディーン氏がこの共通コードの推進を世界に投げかけたことから始まり、現在 CIBJO 色石部会部会長として活躍されております。また、当協会理事の堀内氏は ICA 情報開示委員長として、コードの明記の啓蒙を行っています。

https://www.youtube.com/watch?v=X4xqd_IpsNQ

情報開示は然程大げさなものではないのですが、今後議論が深まると思われる宝石の呼称（トレードネーム）や Ethical Trade（倫理的取引）、CSR（企業の社会的責任）といった次のレベルの議論の礎になることは間違いないと信じています。

GIA 鑑定書付き CVD の流通というニュースを聞き、先月のニュースレターに引き続き情報開示の重要性を会員の皆様に投げかけると同時に、改めて日本国内での情報開示の啓蒙に、当協会から発信と実行をしてゆきたいと思っています。